ふしぎやびっくりからものや人とかかわる「自分タイム」

―第３学年「はじめての自分タイム」の実践を通して―

秋　山　　哲

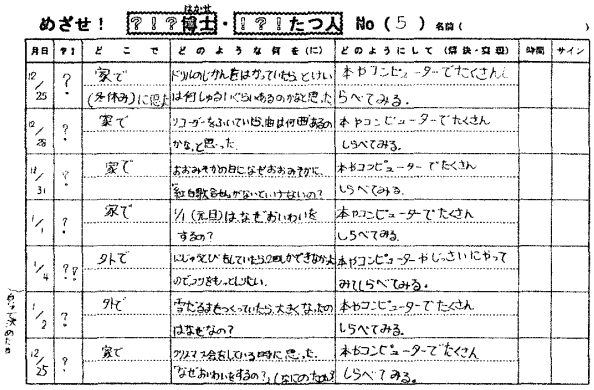
はじめに

本校における「自分タイム」は，子ども一人一人が自らの興味・関心をもとに学習課題を設定し，ゆとりと見通しをもってその課題を追究する時間である。中学年においては，自ら課題を設定し，その追究を楽しみながら，学習の仕方を身につけることをねらいとしている。しかし，はじめて総合的な学習の始まる第３学年の子どもたちにとって，興味・関心のあることであれば何でもしてよしといわれても，何をやってよいものやら見通しをもつことができないのも事実である。本実践は「日常の素朴な疑問」を出発点とし，「課題をもつ」ということはどのようなことであるかを考えることをめざして行った。追究の活動ふりかえる自己評価を通して，課題がどのようであったかを子どもに問うことで，自分にとって価値ある課題とは何か，また，日常の素朴な疑問をもつことにあるよさを子どもとともに考えていきたい。

１　日常の疑問を出発点に

子どもたちに「やりたいことに挑戦してみよう。」「知りたいことを調べてみよう。」「不思議なことを解決しよう。」といってもなにをしてよいのか悩むことになる。「はじめての自分タイム」では，まず，課題をどのようにして子どもたちが見つければよいのかということを考えた。「解決しなければならない。」「できなければならない。」ということをぬきにして，日常生活の中で感じた疑問やびっくりをまず集めることにしたのである。右の表は，子どもたちが疑問を集めるときに使ったものである。

めざせ！博士・達人カード



めざせ！ ?!?博士・!?!たつ人 No（５）名前（　　）

月日	?!	どこで	どのような何を(に)	どのようにして(探検・実験)	時間	サイン
12/25	?	家で(冬休み)に思った	ドリルのじかんをはやくしたらどれいは何じゅう年くらいあるのかなと思った	本やコンピューターでたくさんしらべてみる。		
12/28	?	家で	リコーダーをふいていたら曲は何曲あるのかな、と思った	本やコンピューターでたくさんしらべてみる。		
12/31	?	家で	おおみそかの日になぜおおみそかに、紅白歌合戦がないといけないの?	本やコンピューターでたくさんしらべてみる。		
1/1	?	家で	1/1(元日)はなぜおいわいをするの?	本やコンピューターでたくさんしらべてみる。		
1/4	?!?	外で	にじや虹が出ていたらのぼりができるかなのでつりをもってみたい。	本やコンピューター本じっさいにやってみてしらべてみる。		
1/2	?	外で	雪だるまをつくっていたら大きくなったのはなぜなの?	本やコンピューターでたくさんしらべてみる。		
12/25	?	家で	クリスマス会をしていると時に思った。なぜおわいを引くの?(なにのためか)	本やコンピューターでたくさんしらべてみる。		

（ひらがな表記）

不思議に思ったことをそのまま書きとめればよいので，子どもにとって負担が少なくそれだけ素朴な疑問も多く集められると考えた。活動の見通しもある程度もつことができるとよいと考え，「どのくらい時間がかかりそうか」「どうやって調べたり挑戦したりすればよいか」書くことのできる子どもには記入できる欄を設けた。夏休み前の７月に集めてみてやり方を覚えた後，夏休み中も継続して行った。

２　素朴な疑問

夏休みに集めた疑問は，39名で369になった。子どもたちの疑問やためしてみたいことは一覧表にして掲示し，その中でもやってみたいことを一人三つに絞ったものをプリントして配布した。疑問ややってみたいことを分析すると，自然関係が148と最も多く，続いて学習に関係することが74，体に関係することが37であった。そのほか，住に関係すること，文具，食，社会生活，テクノロジーに関することがそれぞれ５％程度であった。最も多い自然関係の疑問をさらに詳しく見ると動物に関することが45％，宇宙や地球に関することが33％，植物に関することが19％，その他が３％であった。動物に関することに次いで水や地球，川や海や天気などに関する疑問が多かったのが興味深い。夏休みということもあ

り，海や山に出かける機会が多かったことも一因かと考える。疑問を一覧表にして配ったことで，自分の思ってもいなかった疑問に出会う機会をみんなが得ることになった。そこで，新たなやってみたいことも生まれてきた。

3　活動の実際

(1)　活動のねらい

全　　体	自ら課題を設定し，追究を楽しみながら，学習の仕方を身につけようとする。
テーマタイム	★日常生活から，いくつかの？ややってみたいことを見つけだし，アドバイスを聞き入れながらその中から自分にあった課題を選ぼうとする。 ★大まかな活動計画（主に追究計画を立てようとする。）
追究タイム	★計画に沿って追究しながら，いろいろな追究方法から，課題にあった方法を見つけだそうとする。 ★途中であきらめないで，根気強く追究し続けようとする。 ★追究しながら，計画を見直そうとする。
表現タイム	★活動したことを思い出しながらまとめ，生き生きと表現しようとする。 ★友だちの表現を認め，自分に取り入れようとする。
ふり返りタイム	★活動全体のふり返りを通して，次に生かす点を明らかにし，次の活動にやる気を持とうとする。

(2)　活動計画（前15時間）□＝５年生や保護者，他学級との交流

教師の働きかけ		児童の活動
◆？集めの方法を説明する。 ◆自分タイムの概略を伝える。 ◆集めた課題を紹介し，意欲付けをする。	オリエンテーション ①＋α	◆大まかな活動のねらいや内容を知る。 ◆日常生活や学習の中から，課題を集めることを知る。 ◆課題をいろいろと集め続ける。
◆集めた課題にたいする子どもの思いやこだわりを明らかにして意見交流しやすいようにする。	テーマタイム ②	◆自分の思いを分かるように伝えたり５年生の考えを聞き入れたりする。 ◆５年生とも相談し，自分にあった課題を見つけだす。
◆一人一人の実態把握に努め，賞賛したりアドバイスを送ったりする。 （５年生とのかかわりについて） ◆５年生と同じ時間帯に追究ができるように仕組む。	追究タイム ③	◆活動計画に沿って，自分の考えた追究研究をする。 ◆困ったことが生じた時は，同じ活動場所の５年生に追究の簡単なアドバイスを受ける。 ◆時折，５年生の追究していることを見つめ，自分の追究に取り入れる。
◆初めての活動をふりかえり，互いのよさに気づくようなことができるようにする。 ◆計画の見直しができる場を設ける。 ◆計画の見直すポイントが活動のふりかえりの視点となるように支援する。	ふり返りタイム ②	◆時間の見通しや追究の方法について出し合う。 ◆計画見直しのポイントを５年生と相談する。 ◆自分の思いの達成度を考える。 ◆次の活動プランを立てる。 ◆計画を修正したところをチェックしておく。
◆研究の仕方についての相談にのる。 ◆５年生と同じ時間帯に研究ができるように仕組む。 ◆活動状況について把握する。 ◆必要に応じて，中間報告会を設ける。	追究タイム ④	◆活動プランに沿って、自分の考えた追究活動をする。 ◆学校の決められた追究活動時間だけにとらわれず，自由時間や休日を利用する。 ◆研究の仕方について５年生にアドバイスをもらう。
◆追究して知らせたいことにポイントを絞った表現になるように声をかける。 ◆３年５年が互いに表現しやすい場の雰囲気を作る。	表現タイム ②	◆知らせたいことを相手に分かりやすくまとめる。 ◆相手に分かりやすいように，生き生きと表現する。 ◆友だちの表現を認め，自分の発表に取り入れる。
◆個々のふり返りを全体化し，４年生の活動に生かしやすくする。 ◆？！カードの継続を促す。	ふり返りタイム ①	◆課題への思いがどのくらい達成できたかを中心にふりかえる。 ◆活動全体をふり返り，４年生での活動意欲をもつ。

「異学年同士の特性を生かし合う自分タイムの授業づくり」をねらいとして3年生と5年生の異学年合同の学習を計画した。はじめて取り組む3年生は，いろいろな発想力はあるが具体的な見通しを立てることは難しい。5年生は経験豊富で見通しもって取り組めるが，発想が固定化しつつある悩みももっている。この二学年のそれぞれの特性を生かすためにかかわりの場を持つことでそれぞれの活動が充実したものになるようにと考えた。

3年生の課題は，「扇風機の前で『あー』というと声が変わるのはなぜか」とか「水に長い間入っていると唇が紫になるのはなぜか」など素朴な疑問が多く，369種類にもなる多様な疑問があった。しかしながら，解決方法として子どもたちがあげていたのは，半数以上が「お母さんや家の人に聞く」であり，活動の見通しをもつことができているとはいえなかった。調べることについても「本で調べる」が多く，具体的な活動につながるものは少なかった。そこで，課題を決める段階で5年生と交流することを通して次のことをねらった。

①活動の見通しをもつことができる。

②課題のよさを認めてもらうことができる。

表現タイムにおいては，3年生の他学級との交流を行った。参観日に設定し，保護者からの気づきももらうことができるようにした。多様な考えに接し活動の広がりや深まりにつながると考えたからである。

また，総合的な学習に対する保護者の理解も得られのではないかと考えた。自分タイムは，学校の時間を越えて活動すことも多く，準備や安全面のことも考えると保護者の理解がなくてはならないと考えている。

参観日の発表会

4　成果と課題

日常の素朴な疑問集めは，子どもたちが普段抱いている疑問に多く接することができ，教師にとっても大きな収穫があった。「人類の誕生について」や「たんこぶはどうしてできるのか」などこれまでにない課題に取り組む子どもたちもいたことは，疑問集めの成果と考える。

また，子どもたちは課題を解決する手だてが見えないのだということも明らかにできたのもよかった。

参観日に表現タイムを行ったことで保護者の気づきを聞くことができたこともこれからの活動を考える上で参考になった。過程での準備のことや郊外の施設を使って学習を広げていくためには，保護者の協力は不可欠である。

しかし，3年生の活動は10時間以上継続するものが少なかった。サッカーが上手になりたいやクッキーづくりなど活動時間を楽しむ傾向も出てきている。経験することも認めながら，活動に広がりや深まりをもつことができるような支援が求められている。

表現タイムや活動の計画段階で教師自身のアイデアが求められていると感じている。教師が適切な助言として子どもの活動が広がるアイデアや新たな課題を投げかけることが，子どもたちの活動を広げる上で大切であると考える。それは，課題の解決に直接つながることではなく，調べ方や取り組み方であると思われる。一人の子どもの取り組みのよさを集団に広げていくことがこれから，求められると考える。

自分タイムの時間は，子どもたちは生き生きとして活動している。自分の思ったことを思い切ってできるからである。その活動がより充実したものとなるようこれからも支援のあり方を考えていきたい。